



Process Design Architecture 利用者ガイド

「Process360 Live Process Design Ver. 19 Architecture 操作ガイド」©SunPlanningSystems Co., Ltd. All rights reserved.

(株)サン・プランニング・システムズの書面による事前の許可がある場合を除き、本書の一部または全体を複製したり、電送することはできません。また、記憶装置に保存したり、他言語に翻訳する事も禁止されています。

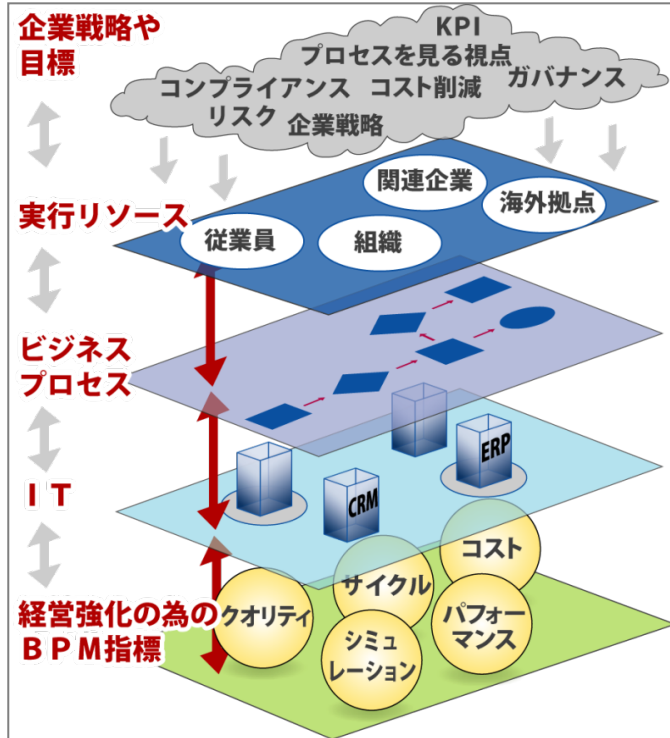
目次

第1章	Process360 Live Process Design Architecture 概要	4
1	Architecture の機能と役割	4
2	企業オブジェクトとは	4
3	企業オブジェクトの種類	5
第2章	企業オブジェクトの登録	6
1	Web ブラウザでの操作	6
1.1	オブジェクトの追加	6
1.2	オブジェクトの修正とリレーションの登録	6
1.3	オブジェクトの削除	6
1.4	特殊リレーションの説明	7
1.5	設定	11
1.6	記述元	16
2	iGrafx デスクトップクライアントでの操作	17
2.1	オブジェクトの追加	17
2.2	リレーションの登録	17
3	レポート	17
3.1	レポートの種類	17
3.2	レポートの例	18
第3章	iGrafx デスクトップクライアントでの企業オブジェクトの利用	21
1	Swimlane	21
2	プロセス・アクティビティ	21
2.1	オブジェクトを図形から作成	21
2.2	登録済みのオブジェクトの再利用	22

第1章 Process360 Live Process Design Architecture 概要

1 Architecture の機能と役割

Architecture では、企業のプロセスとアクティビティ、戦略、要求、リスク、リソース、作業生産物などを表す企業オブジェクトをリポジトリに作成し、データ同士の関連付けを行うことで企業全体のモデリングを行うことができます。



2 企業オブジェクトとは

企業オブジェクトとは、企業のモデリング要素です。

企業オブジェクトには戦略、目標、RACI、リスクとコントロールなどの情報を記述することができ、全員が企業に対する適切な理解を持てるようにします。また企業オブジェクトを業務フローの図形に適用することで、企業のビジネスを視覚的に理解することができます。



3 企業オブジェクトの種類

企業をモデリングするためのオブジェクトを作成します。

オブジェクトに応じて、Web のみでしか作成することができないものがありますので、下記表をご確認ください。

オブジェクトの種類	説明
戦略	特定の目的を達成するための長期的なアクション計画を記述します。
機能	機能の種類を編集することができます。
製品	販売または加工された物理的および非物理的な製品を登録します。
ビジネスサービス	外部および内部の関係者が利用できるサービスや、サービスレベルを登録します。
プロセス	結果を生み出す一連の操作及びイベント。 他のプロセスやアクティビティで構成されることがあり、ランドスケープ内で整理されます。
ジャーニー	カスタマージャーニーにおける外部及び内部の利害関係者のタッチポイントとその瞬間を表現できます。ジャーニー・マップは Web Diagram で記述、格納します。
要求	実現を期待されている内容で、主要な企業オブジェクトへの要求となります。 ビジネス、財務、技術、およびその他の種類の要求が含まれる可能性があります。
コントロール	企業に対するコントロールです。 ビジネス構造を定義したり、業務上のふるまいをコントロールしたり、業務上の振るまいに影響を与えたりすることを意図しています。コンプライアンスを制御したり、コンプライアンスの監査を制御するために必要なアクションです。たとえば、マネージャーの承認を必要とする公式なレビューなどです。
リスクカタログ	企業の機能的な成功に対するリスクを識別するために一貫した設定を提供します。
機会カタログ	リスクを取るものの潜在的なプラスの効果を登録します。
作業生産物	プロセス、またはアクティビティの入力または出力となる物理的な商品、情報、またはデータ。
クラス	システムの実装に使用されるプログラミングクラスです。
用語集	企業内で認識共有すべき用語を登録します。
外部要因	企業外の人員を登録します。
リソース	企業の仕事を実行するために使用されます。
インターフェイス	リソースが提供するインターフェイスです。コンピュータシステムなどの物理的なリソースである場合があります。
ダッシュボード	企業の重要なデータが一目で理解できるように整理できる場所です。
レポート	iGrafix でのレポートの表示、作成、変更に関する概要です。
図形ライブラリ	WebDiagram でフローを作成する場合に使用します。

第2章 企業オブジェクトの登録

プロセス、リソースなどの企業オブジェクトを事前に登録しておくことにより、業務や組織をリポジトリで一元管理し、ドラッグ＆ドロップでフローチャートを作成したり、名称変更時に図表を一括更新したりすることができます。また、オブジェクト間のリレーションを設定すると、それらの依存関係をレポートで表示することができます。

1 Web ブラウザでの操作

企業オブジェクトは、Web ブラウザまたは iGrafx デスクトップクライアントより登録することができます。ここでは、Web ブラウザからのオブジェクトの登録およびリレーションの登録について、よく使用するオブジェクトを例にいくつか操作方法を記載しています。

1.1 オブジェクトの追加

- ① リポジトリツリーで、追加したいフォルダを選択します。
- ② オブジェクトの T O P 画面にある「オブジェクトの追加」をクリックします。
- ③ 「種類の選択」より追加したいオブジェクトの種類を選択し「続行」をクリックします。
- ④ 追加するオブジェクト名を入力します。
- ⑤ 必要に応じて「概要」を入力します。
- ⑥ このオブジェクトに関する変更通知を受け取りたい場合は、「このオブジェクトを監視する」にチェックを入れます。
- ⑦ 他のオブジェクトを連続して追加する場合は、「もう 1 つ作成」にチェックを入れています。
- ⑧ 「完了」ボタンをクリックします。

※オブジェクトフォルダ内でフォルダ階層を作成する場合は、事前に追加するオブジェクトの種類として「フォルダ」を追加しておきます。

1.2 オブジェクトの修正とリレーションの登録

- ① リポジトリツリーで、登録されたオブジェクトを選択します。
- ② リポジトリツリーで、登録されたオブジェクトを選択します。
- ③ 「プロセスフォルダ」タブの「概要」や「目的」、「説明」などを新規追加する場合は、「追加」コマンドを選択し、登録内容を編集する場合は、「編集」コマンドをクリックして編集します。
- ④ 詳細リレーションを登録するには、「リレーション」タブを開き、それぞれの項目の「+」ボタンよりリレーションを登録します。
- ⑤ リレーションについての詳細は別紙の「Process360 Live Process Design Architecture プロパティ一覧 Ver19」をご参照ください。

※リレーションで登録できる「担当者」、「責任者」、「相談先」、「通知先」についてはオブジェクト「プロセスフォルダ」タブの「RACI」からも登録することができます。

1.3 オブジェクトの削除

- ① リポジトリツリーで削除したいオブジェクト上で右クリックします。
- ② 「オブジェクトの削除」を選択します。
- ③ 「このオブジェクトを削除しますか？この操作を元に戻すことはできません。」のメッセージが出力されます。
- ④ 「削除」をクリックするとオブジェクトが削除されます。

「キャンセル」をクリックすると削除が中断されます。

※削除する場合、オブジェクトの下位階層にあるオブジェクトもまとめて削除されてしまうため、オブジェクトを削除の際はご注意ください。

1.4 特殊リレーションの説明

1) 作業生産物フロー

作業生産物フローのリレーションには「受信」、「送信」、「作業生産物フロー」の3種類があります。「受信」と「送信」はプロセス、アクティビティ、外部要員オブジェクトで、「作業生産物フロー」は作業生産物オブジェクトで設定できます。

「受信」の「ソース」には送信元となるオブジェクトを登録し、「作業生産物」には「ソース」が出力した作業生産物オブジェクトを登録します。

The screenshot shows the 'Add Relationship' dialog for the 'Receive' type. The 'Type' is set to 'Receive'. The 'Source' field is highlighted with a red box, indicating where to enter the source object. The 'Target' field is empty. The 'Tree View' checkbox is unchecked. The 'Complete' button is visible at the bottom right.

「送信」の「ターゲット」には情報の送信先となるオブジェクトを登録し、「作業生産物」にはターゲットに入力される作業生産物のオブジェクトを登録します。

The screenshot shows the 'Add Relationship' dialog for the 'Send' type. The 'Type' is set to 'Send'. The 'Target' field is highlighted with a red box, indicating where to enter the target object. The 'Source' field is empty. The 'Tree View' checkbox is unchecked. The 'Complete' button is visible at the bottom right.

「作業生産物フロー」の「ソース」には情報の送信元となるオブジェクトを登録し、「ターゲット」には送信先となるオブジェクトを登録します。

The screenshot shows the 'Add Relationship' dialog for the 'Work Product Flow' type. The 'Type' is set to 'Work Product Flow'. The 'Source' field is highlighted with a red box, indicating where to enter the source object. The 'Target' field is empty. The 'Tree View' checkbox is unchecked. The 'Complete' button is visible at the bottom right.

2) リスク>>

「リスク>>」にはリスクの発生元となるオブジェクトを登録することができます。

※リスクの「リスク>>」には複数のオブジェクトを登録できますが、リスクインスタンスはリスクの発生元毎に個別に定義するため、リスクインスタンスの「リスク>>」には1つのオブジェクトしか登録できません。

パフォーマンス、リスク、機会、コントロール		
リスク>>	プロセス1	X
リスクあり		
リスク インスタンスあり		
機会あり		
機会>>		
コントロール元		
測定者		

追加

3) リスクあり

「リスクあり」には発生するリスクを登録することができます。

パフォーマンス、リスク、機会、コントロール		
コントロール元		
リスクあり	リスク1	X
機会あり		
測定者		
監査		
実装		

追加

リンク関係

2) の「リスク>>」とリンクしているため、「リスクあり」にリスクインスタンスを登録する際に、リスクインスタンス側の「リスク>>」に既存のオブジェクトがある場合は上書き変更されます。

4) リスクのインスタンス

「リスクのインスタンス」には元（テンプレート）となるリスクを登録することができます。

※「リスクのインスタンス」には1つのリスクしか登録できません。

パフォーマンス、リスク、機会、コントロール		
リスク>>		
リスクのインスタンス	リスク2	X
機会>>		
機会のインスタンス		
コントロール元		
測定者		

追加

5) リスク インスタンスあり

「リスク インスタンスあり」にはリスクインスタンスを登録することができます。

パフォーマンス、リスク、機会、コントロール		
リスク>>		
リスクあり		
リスク インスタンスあり	リスクインスタンス2 - 1	X
機会あり		
機会>>		
コントロール元		
測定者		

追加

リンク関係

4) の「リスクのインスタンス」とリンクしているため、「リスク インスタンスあり」にリスクインスタンスを登録する際に、リスクインスタンス

側の「リスクのインスタンス」に既存のオブジェクトがある場合は上書き変更されます。

6) コントロール

「コントロール」にはコントロール対象となるオブジェクトを登録することができます。

ビジネス規則には「コントロール」に複数のオブジェクトを登録することができますが、コントロールインスタンスはコントロールの対象毎に個別に定義するため、コントロールインスタンスには「コントロール」は1つのオブジェクトしか登録できません。

パフォーマンス、リスク、機会、コントロール		
コントロール元	④	リレーションが定義されていません
リスクあり	④	リレーションが定義されていません
機会あり	④	リレーションが定義されていません
測定者	④	リレーションが定義されていません
コントロール	④	リスク1
監査元	④	リレーションが定義されていません
実装者	④	リレーションが定義されていません
コントロールのインスタンス	④	リレーションが定義されていません

リンク関係

7) コントロール元

「コントロール元」にはこのオブジェクトを統制するコントロールを登録することができます。

パフォーマンス、リスク、機会、コントロール		
コントロール元	④	コントロール1
リスクあり	④	リレーションが定義されていません
機会あり	④	リレーションが定義されていません
測定者	④	リレーションが定義されていません
コントロール	④	リレーションが定義されていません
監査元	④	リレーションが定義されていません
実装者	④	リレーションが定義されていません
コントロール インスタンスあり	④	リレーションが定義されていません

6) の「コントロール」とリンクしているため、「コントロール元」にコントロールインスタンスを登録する際に、コントロールインスタンス側の「コントロール」に既存のオブジェクトがある場合は上書き変更されます。

8) コントロールのインスタンス

「コントロールのインスタンス」には元となるコントロール（ビジネス規則）を登録することができます。

※「コントロールのインスタンス」には1つのコントロールしか登録できません。

パフォーマンス、リスク、機会、コントロール		
コントロール元	④	リレーションが定義されていません
リスクあり	④	リレーションが定義されていません
機会あり	④	リレーションが定義されていません
測定者	④	リレーションが定義されていません
コントロール	④	リレーションが定義されていません
監査元	④	リレーションが定義されていません
実装者	④	リレーションが定義されていません
コントロールのインスタンス	④	コントロール1

リンク関係

9) コントロール インスタンスあり

「コントロール インスタンスあり」にはコントロールインスタンスを登録することができます。

パフォーマンス、リスク、機会、コントロール		
コントロール元	④	リレーションが定義されていません
リスクあり	④	リレーションが定義されていません
機会あり	④	リレーションが定義されていません
測定者	④	リレーションが定義されていません
コントロール	④	リレーションが定義されていません
監査元	④	リレーションが定義されていません
実施者	④	リレーションが定義されていません
コントロール インスタンスあり	④	コントロールインスタンス

8) の「コントロールのインスタンス」とリンクしているため、「コントロール インスタンスあり」にコントロールインスタンスを登録する際に、コントロールインスタンス側の「コントロールのインスタンス」に既存のオブジェクトがある場合は上書き変更されます。

10) ドキュメント元

「ドキュメント元」のリレーションはオブジェクトまたは、URL を登録することができます。

◆ オブジェクトで登録する場合

リレーションの追加

1 種類の選択

ドキュメント元

☒ オブジェクトでドキュメント
☐ URL でドキュメント

2 詳細

キャンセル 続行

リレーションの追加

✓ 種類の選択

ドキュメント元

2 詳細

ツリーの表示 ☐

戻る キャンセル 完了

◆ URL で登録する場合[実小1]

リレーションの追加

1 種類の選択

ドキュメント元

☐ オブジェクトでドキュメント
☒ URL でドキュメント

2 詳細

キャンセル 続行

リレーションの追加

✓ 種類の選択

ドキュメント元

2 詳細

URL

名前

戻る キャンセル 完了

1.5 設定

ここでは各オブジェクトにある設定タブについて説明していきます。

※「設定」は管理者ユーザーにより編集することが可能ですが、今回はデフォルトの「設定」について説明します。また「設定」を持たないオブジェクトには「設定」タブは表示されません。

1) リソースの設定

組織系以外のリソースの「設定」タブにある「設定」、「残業時間」、「可用率」欄は iGrafx Process をご利用の方向けの機能になります。

iGrafx Process のリソース設定を Process360 Live Process Design 側で行うことができます。

各項目の設定を変更します。

残業時間や可用率は一番上の「許可」、「制限付き」にチェックを入れることにより編集が可能となります。

※iGrafx Process に存在しないリソースには、「残業時間」、「可用率」などの設定はできません。

設定についての詳細は iGrafx Process オペレーションガイドをご参照ください。

2) リスクの設定

◆ リスクの種類/リスクインスタンスの種類

「リスクの種類」では「Operational」、「Strategic」、「Tactical」の中から該当する種類を選択します。

※「リスクインスタンスの種類」は「Instance」しか選択できません。

◆ データの種類

「データの種類」では「標準」、「値」の中から該当する種類を選択します。

標準 リスク値を影響度と可能性と指定します

値 リスク値を数値で指定します

◆ リスクカテゴリー

「リスクカテゴリー」では「財務」、「業務」、「規制」、「評価」の中から該当するカテゴリーを選択します。

※複数選択可

リスクカテゴリー

☐ 財務

☐ 業務

☐ 規制

☐ 評価

◆ 財務影響単位

「財務影響単位」には任意の文字列で財務影響単位を入力することができます。

財務影響単位

◆ 重み付け

「重み付け」では「なし」、「非常に低い」、「低い」、「中」、「高い」、「非常に高い」の中から該当する重みを選択します。

重み付け

なし

非常に低い

低い

中

高い

非常に高い

◆ 却下

優先される重要なリスクの場合は「却下」にある「他のリスクを未然に回避」にチェックを入れます。

却下

☐ 他のリスクを未然に回避

3) コントロールの設定

◆ コントロールの種類/コントロールインスタンスの種類

「コントロールの種類」では「Business Rule」、「Control」、「Gap」の中から適切なコントロールの種類を選択します。

※「コントロールインスタンスの種類」は「Instance」しか選択できません。

コントロールの種類

Business Rule

Control

Gap

コントロール インスタンスの種類

Instance

◆ コントロール評価

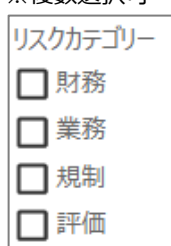
「コントロール評価」では「未指定」、「Ineffective Control」、「Largely Ineffective Control」、「Partially Ineffective Control」、「Largely Effective Control」、「Effective Control」の中から適切なコントロール評価を選択します。



◆ リスクカテゴリー

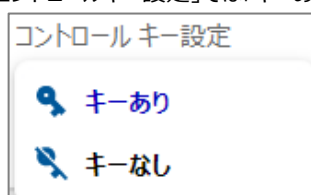
「リスクカテゴリー」では「財務」、「業務」、「規制」、「評価」の中から適切なカテゴリーを選択します。

※複数選択可



◆ コントロールキー設定

「コントロールキー設定」では「キーあり」、「キーなし」を選択することができます。



4) 業績評価指標の設定

◆ 業績評価指標の種類

「業績評価指標の種類」では「Key Performance Indicator (KPI)」、「Measurement」、「Operational Performance Indicator (O-KPI)」、「Process Performance Indicator (PPI)」、「Risk」、「Service Performance Indicator (SPI)」、「Strategic Performance Indicator (S-KPI)」、「Tactical Performance Indicator (T-KPI)」の中から該当する業績評価指標の種類を選択します。



◆ データの種類

「データの種類」では「時間ベース(数値)」、「時間ベース (テキスト)」、「カテゴリベース」、「ロールアップ」、「スケジュールされたレポート」の中から該当するデータの種類を選択します。

データの種類

- 時間ベース(数値)
- 時間ベース(テキスト)
- カテゴリベース
- ロールアップ
- スケジュールされたレポート

時間ベース (数値)	時系列を追って変化する数値を管理します。
時間ベース (テキスト)	時系列を追って変化する文字列 (ステータス) を管理します。
カテゴリベース	カテゴリ別の現在の数値を比較・管理します。
ロールアップ	複数の評価指標を集計・統合して管理します。

◆ 単位

「単位」では「評価システム」で設定された評価の単位を任意の文字列で設定することができます。

単位

◆ 評価システム

「評価システム」では「なし」「RAG」「GAR」「RAGAR」「RG」「GR」の中から該当する評価システムを選択します。

評価システム

- なし
- RAG
- GAR
- RAGAR
- RG
- GR

R	Red	危険
A	Amber	注意
G	Green	安全

◆ 重み付け

「重み付け」では「なし」、「非常に低い」、「低い」、「中」、「高い」、「非常に高い」の中から該当する重みを選択します。

重み付け

- なし
- 非常に低い
- 低い
- 中
- 高い
- 非常に高い

◆ 他の業績評価指標を上書き

優先されるべき重要な業績評価指標の場合「他の業績評価指標を上書き」にチェックを入れると複数の業績評価指標が存在する場合に他の業績評価指標を無視することができます。

☐ 他の業績評価指標を上書き

◆ ターゲット

この業績評価指標の「ターゲット」となる期間や値を設定することができます。

◆ 常時使用できる「ターゲット」

日本標準時			
ターゲット	送信元	制限範囲終了	アクション
	yyyy-MM-dd HH:mn	yyyy-MM-dd HH:mn	追加

◆ 「評価システム」にて「RAG」を選択した際に使用できる「ターゲット」

日本標準時				
送信元	制限範囲終了	低い	高い	アクション
yyyy-MM-dd HH:mn	yyyy-MM-dd HH:mn			追加

◆ 「評価システム」にて「GAR」を選択した際に使用できる「ターゲット」

日本標準時				
送信元	制限範囲終了	低い	高い	アクション
yyyy-MM-dd HH:mn	yyyy-MM-dd HH:mn			追加

◆ 「評価システム」にて「RAGAR」を選択した際に使用できる「ターゲット」

日本標準時						
送信元	制限範囲終了	より低い	低い	高い	より高い	アクション
yyyy-MM-dd HH:mn	yyyy-MM-dd HH:mn					追加

◆ 「評価システム」にて「RG」を選択した際に使用できる「ターゲット」

日本標準時		
送信元	制限範囲終了	アクション
yyyy-MM-dd HH:mn	yyyy-MM-dd HH:mn	追加

◆ ファクト識別子

「ファクト識別子」は別のデータベースとデータをやり取りする際に使用します。

ファクト識別子
✎

1cea3e17-afcd-408d-b8fa-9da56ba14e1c

5) 作業生産物の設定

◆ 作業生産物レイヤ

該当する「作業生産物レイヤ」をチェックボックスで選択します。

※「作業生産物レイヤ」は必須項目となりますので、「作業生産物レイヤ」が1つも選択されていない状態だとエラーが発生します。

作業生産物レイヤ

☐ ビジネス

☐ 情報:

☐ データ

作業生産物レイヤを少なくとも1つ選択する必要があります

6) 要求の設定

◆ 要求の種類

「要求の種類」では「ビジネス」、「財務」、「機能」、「ガバナンス/コンプライアンス」、「パフォーマンス」、「個人」、「製品」、「リスク」、「技術」の中から要求の種類を選択することができます

要求の種類

ビジネス

財務

機能

ガバナンス/コンプライアンス

パフォーマンス

個人

製品

リスク

技術

1.6 記述元

- ① 「記述元」タブを選択します。

※図表に記述されていないオブジェクトには「記述元」タブは表示されません。

- ② このオブジェクトがどの図表で使用されているか確認することができます。

「図表に移動」をクリックすると対象の図表に移動します。

※リポトリ内に格納されている図表に限ります。

- ③ 右側に記述元の図表一覧が表示されクリックすると別図表に配置されたオブジェクトの場所が表示されます。

2 iGrafx デスクトップクライアントでの操作

ここでは、iGrafx デスクトップクライアントより企業オブジェクトを登録する方法について「プロセス」を例として記載しています。iGrafx デスクトップクライアントからも登録はできますが、リレーションの登録などは Web ブラウザ上での登録となるため、ライセンスなどに応じて使い分けをしてください。

2.1 オブジェクトの追加

リポジトリツリーで、追加したいオブジェクト(フォルダ)上で右クリックします。

- ① 「新規 XXXX」をクリックすると「項目の追加」のダイアログが開きます。
- ② 「名前」欄に追加するオブジェクト名を入力します。
- ③ 必要に応じて「概要」を入力します。
- ④ このオブジェクトに関する変更通知を受け取りたい場合は、「このオブジェクトを監視する」にチェックを入れます。

「OK」ボタンをクリックします。

※他のオブジェクトを連続して追加する場合は、「追加」ボタンをクリックします。

※iGrafx デスクトップクライアント側で作成できるオブジェクトには制限があります。

◆ 作成できるオブジェクト

戦略、要求、コントロール、プロセス、外部要員、リソース、インタフェース、作業生産物、クラス、外部ファイル

2.2 リレーションの登録

リレーションの登録は、Web ブラウザ上で行います。

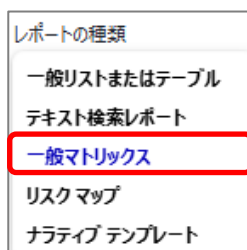
- ① リポジトリツリーで、登録されたオブジェクトを選択します。
- ② 選択したオブジェクトを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。「項目のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
- ③ 「項目のプロパティの表示」ボタンをクリックすると、Web ブラウザが開きますので、リレーションについては Web ブラウザ上で登録します。

3 レポート

3.1 レポートの種類

Architecture の機能では、「一般マトリクス」、「リスクマップ」のレポートを作成することができます。

- ① サイドメニューより、「レポート」オブジェクトを選択します。
- ② 「設定」タブを開き「レポートの種類」よりレポートの種類を選択することができます。



- ③ 「一般マトリクス」では行、列にオブジェクトを設定しマトリクス形式のレポート作成することができます。

「リスクマップ」ではプロセスなどに紐付いたリスクの「データ」に基づいてマッピングされたレポートを作成することができます。

3.2 レポートの例

1) 「一般マトリクス」レポート

◆ RACI マトリックス

【設定例】

「行フィルタ」、「列フィルタ」には行、列それぞれに表示したいオブジェクトを設定します。（複数設定可）

「リレーション」には表示したいプロパティを設定します。（複数設定可）

レポートの種類

一般マトリクス

行フィルタ

type=ObjectType.ACTIVITY or type=ObjectType.PROCESS

列フィルタ

type=ObjectType.RESOURCE

リレーション

responsible accountable consulted informed

データのダウンロード

レポートのプレビュー

チェックイン

ここでは、「行」にはアクティビティとプロセスを設定し「列」にはリソースを設定しています。

リレーションには RACI にある「responsible(担当者)」「accountable (責任者)」「consulted (相談先)」「informed (通知先)」を設定しています。

【表示例】

	COO(最高執行責任者)	IT部門	ガバナンス・リスク・コンプライアンス担当	マーケティング部門	三井 順三	上杉 健介	上村 由美	中島 利浩	人事部門	伊藤 達彦	会計士・役割	佐々間 一郎	前野 孝明	南 盛郎	取締役会	変遷責任担当者	吉岡 康	吉村 三郎	吉田 昭子	北川 知雄
1.0 ビジョンと戦略の立案																				
2.0 製品/サービスの開発・管理																				
2.1 製品/サービスの管理																				
2.2 製品/サービスの開発																				
2.3 インベーション管理																				
3.0 製品/サービスの市場調査・販売																				
3.1 市場及び顧客の理解																				
3.2 マーケティング戦略の立案																				
3.3 販売戦略の立案																				
3.4 マーケティング計画の策定・管理																				
3.5 販売計画の策定・管理																				
3.5.3 顧客販売管理																				
3.5.3.1 販売コールの実施																				

表時オプションのドロップダウンに「リレーション」に設定されたプロパティの一覧が表示されますので、変更すると特定のプロパティに関するリレーションのみを表示することができます。

表示オプション

リレーションの表示

すべて

すべて

responsible.resource

consulted.resource

accountable.resource

informed.resource

◆ プロセスと IT システムの関連マトリックス

【設定例】

レポートの種類
一般マトリックス

行フィルタ
type=ObjectType.ACTIVITY or type=ObjectType.PROCESS

列フィルタ
type=ObjectType.RESOURCE

リレーション
isSupportedBy

データのダウンロード レポートのプレビュー チェックイン

【表示例】

	Adobe Acrobat	Benchmarking Portal	CRM S/F	Flash Developer	IGrafix - Enterprise Modeler	IGrafix - Graphical Client	IGrafix - Performance Central	MS Internet Explorer	MS Office - Excel	MS Office - Outlook	MS Office - Power Point	MS Office - Word	Paint Shop Pro	PMS (Performance Measurement System)	SAP FI / CO	SAP MM	Web Development Suite	WebEx	ワークフロント	小口現金
1.3.1 合併・買収																				
1.3.1.5 決算処理の統合																				
3.1.1 顧客および市場の分析																				
3.1.2 市場機会の評価と優先順位付け																				
3.2.1 顧客価値提案の定義																				
3.2.2 価値に準じた価格戦略の定義																				
3.2.3 チャンネル戦略の定義と管理																				
3.3.1 売上予測の策定																				
3.3.2 販売パートナー/アライアンス関係の構築																				

表示オプション

リレーションの表示

すべて

すべて isSupportedBy.object

2) 「リスクマップ」レポート

プロセスなどに紐付いているリスクの「データ」に基づいて下の表にマッピングされます。

	非常に高い	高い	中	低い	非常に低い
非常に高い	中	中	高い	高い	高い
高い	中	中	中	高い	高い
中	低い	中	中	中	高い
低い	低い	中	中	中	中
非常に低い	低い	低い	低い	中	中
	非常に低い	低い	中	高い	非常に高い
可能性					

「影響度ヘッダー」、「可能性ヘッダー」を変更することによって、画面左の「影響」や「可能性」を非表示にしたり位置を変更することができます。

「マトリックス セル タイトル」を変更するとリスクマップの表記を変更することができます。

影響ヘッダー

左

ヘッダーなし

左

右

両方

可能性ヘッダー

ヘッダーなし

ヘッダーなし

下

上

両方

マトリックス セル タイトル

名前と値

セル タイトルがありません

名前のみ

値のみ

名前と値

「影響ヘッダー」、「可能性ヘッダー」、「マトリックス セル タイトル」変更後



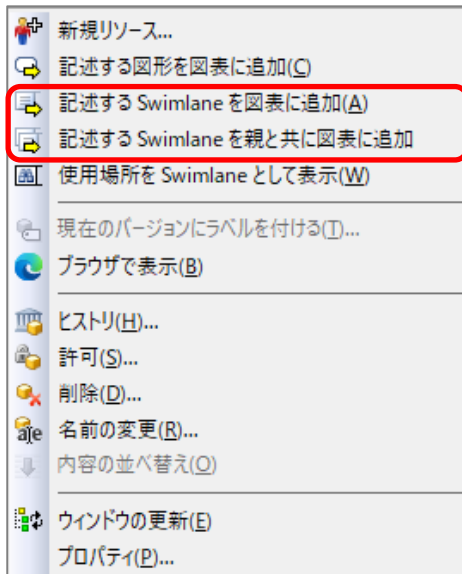
第3章 iGrafx デスクトップクライアントでの企業オブジェクトの利用

1 Swimlane

iGrafx デスクトップクライアントを使用してフローチャートを作成する際に、既に作成されているリソースを利用して Swimlane を挿入することができます。

- ① Swimlane を挿入したいファイルをチェックアウト、または新規作成します。
- ② 「リソース」フォルダ内の、図表に挿入したいリソースを選択して右クリックし、「記述する Swimlane を図表に追加」を選択します。

※親 Swimlane もあわせて追加したい場合は、「記述する Swimlane を親と共に図表に追加」を選択します。



- ③ 挿入された Swimlane  のアイコンが表示されます。

※既存の Swimlane にドラッグ & ドロップすることによって上書きすることもできます。

2 プロセス・アクティビティ

2.1 オブジェクトを図形から作成

作成したフローチャートの図形から、プロセスなどのオブジェクトを作成することができます。

- ① フローチャート上の図形を選択し、周囲の網掛け部分をドラッグして追加したい位置にドロップします。

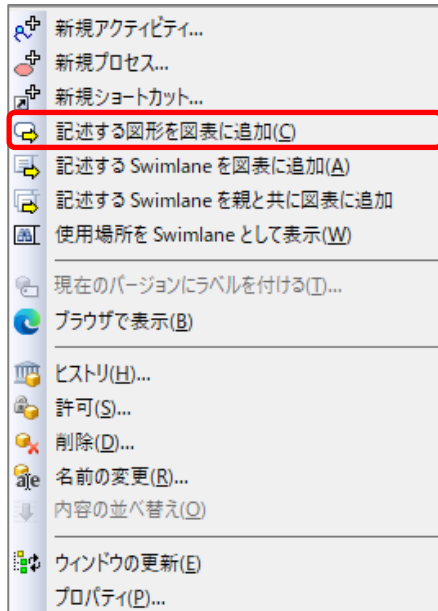
※アクティビティを作成する場合はプロセスヘドロップし、表示されるメニューより「アクティビティをここに作成する」を選択します。

- ② リポジトリツリーを展開し、オブジェクトが登録されたことを確認します。

2.2 登録済みのオブジェクトの再利用

登録済みのオブジェクト（プロセスやアクティビティ）を再利用し、すべての情報がリンクされた状態で図形を配置することができます。

- ① 図形を挿入したいファイルをチェックアウト、または新規作成します。
- ② 「プロセス」フォルダ内の、図表上に配置したいプロセスやアクティビティを選択して右クリックし、「記述する図形を図表に追加」を選択します。



- ③ 配置された図形に紐付いているオブジェクトのアイコンが表示されます。

※既存の図形にドラッグ＆ドロップすることによって上書きすることもできます

